

## 「第6回徳山ダム環境保全対策委員会」審議内容メモ

日 時：平成14年10月8日(火) 13:30~15:45

場 所：名古屋逓信会館 6階 菊の間

出席者：(委員)佐藤委員長、阿部委員、前田委員、松井委員、水野委員、  
中村委員、西條委員(abc順)  
(事務局)約40名

### 【審議内容等】

#### 1. 前回(第5回)委員会の審議内容の確認

第5回委員会(平成14年3月7日)の審議内容を確認した。

#### 2. 事業の進捗状況及び今後の工事計画について

平成14年9月末までの工事実施状況を確認した。

今後(平成14年度末まで)の主要な工事予定に関する説明があった。

#### 3. プロジェクト実施状況について

各プロジェクトの活動状況と今後の活動予定について、以下のように報告と審議が行われた。

陸域環境：生育・生息環境PT

- 1)湿性地の整備状況と整備後の調査結果について概要が報告された。8000㎡という規模の大きい対策は例が少ないので、水温変化のつけ方等についても、引き続き検討するよう指摘があった。
- 2)調査横坑の存置に向けての検討状況が報告された。

陸域環境：植物PT

- 1)ダムサイト法面緑化の現状について報告された。
- 2)原石山、コア山における表土利用による在来植生の回復の取り組みについて報告された。今後、比較のため「刈り取り区」でのデータも得るよう指摘があった。

河川環境PT

- 1)「お魚引っ越し大作戦」の実施成果について報告された。
- 2)環境保全河川の趣旨を生かすための、関係機関との連携の現状について報告された。

ワシタカPT

- 1)今繁殖期の繁殖状況について、イヌワシ1つがい及びクマタカ5つがいにおいて巣立ち幼鳥を確認している旨の報告があった。
- 2)CCDカメラ映像の収録成果が紹介され、その解析の重要性及び方向性について指摘があった。

その他

- ・本年度の環境学習会の開催状況が報告された。

#### **4．モニタリング計画について**

モニタリングの目的・手法、その成果の活用方法及び把握した変化への対応方法や予算措置について、各委員からその経験を踏まえた多くの示唆・要望があり、個々の方法論を各PTで年度内に詰めるべきとの助言が行われた。

ダム建設による地域の生態系の遷移過程の量的なデータ把握も重要であり、過去の調査成果の蓄積が豊富である徳山ダムはその適地であるという提言が行われた。

湿性地の創出については、水田跡地の代償という観点から離れ、新たに創出された環境の既存自然環境への溶け込みという観点に立って見ていくことの重要性が指摘された。

#### **5．審議内容の確認**

本日（平成14年10月8日）の審議結果を本メモに基づいて確認した。